

平成26年11月の地震活動及び火山活動について

平成26年11月の地震活動及び火山活動について解説します。

○ [地震活動]

・ 全国の地震活動

全国で震度3以上を観測した地震の回数は23回、日本及びその周辺におけるM4.0以上の地震の回数は82回でした。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また、世界の主な地震は別紙2のとおりです。

・ 11月22日長野県北部の地震活動

11月22日22時08分に長野県北部の深さ5kmでM6.7の地震が発生し、長野県長野市、小谷村、小川村で震度6弱、長野県白馬村、信濃町で震度5強を観測したほか、中部地方を中心に、東北地方から中国地方の一部にかけて震度5弱～1を観測しました。この地震により、負傷者46名、住家全壊36棟、住家半壊66棟等の被害を生じました（12月1日13時30分現在、総務省消防庁による）。

余震は、小谷村から白馬村の南北約20kmにかけた余震域で発生し、余震の数は全体的に見ると次第に減ってきています。これまでに発生した最大の余震は11月22日22時37分のM4.5（最大震度5弱）で、24日6時12分にM3.6（最大震度4）、25日6時26分にM3.9（最大震度4）の余震が発生するなど、12月7日までに震度1以上を観測した余震が113回発生しており、余震は引き続き発生しています。

揺れの強かった地域では、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性が高まっているおそれがあります。復旧活動などを行う場合には、今後の余震や降水の状況に注意し、十分に安全を確認して行動するよう心がけてください。

・ 「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の余震活動

（平成26年11月の活動）

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の余震は、次第に少なくなっているものの、最大震度4以上を観測した地震が1回、震度1以上を観測した地震が62回発生するなど、引き続き岩手県から千葉県北東部にかけての沿岸及びその沖合の広い範囲で発生しました。

国土地理院のGNSS連続観測結果によると、引き続き東北地方から関東・中部地方の広い範囲で、徐々に小さくなってきてはいますが、余効変動と考えられる東向きの地殻変動が観測されています。

（余震の見通しについて）

余震活動は全体的には次第に低下してきているものの、最近の変化は以前に比べゆるやかになってきており、沿岸に近い領域を中心に、本震発生以前に比べて活発な状態が

当分の間継続すると考えられます。

M7.0以上の大きな余震が発生する可能性は低くなっていますが、2014年7月の福島県沖の地震(M7.0)のように大きな余震が、まれに発生することがあり、最大震度5弱以上の強い揺れや、海域で発生した場合には津波が発生する可能性があります。また、比較的小さな余震でも沿岸域や陸域で発生すると震源付近では強い揺れになることがあります。

なお、2004年12月にモーメントマグニチュード(Mw)9.1の地震が発生したインドネシア、スマトラ島北部西方沖では、7年以上経過した2012年にもMw8.6の地震が発生するなど、震源域及びその周辺で長期にわたって余震活動が継続しています。

(防災上の留意事項)

引き続き余震による強い揺れに警戒してください。

また、海域で大きな余震が発生すると津波が発生する可能性があります。海岸で強い揺れを感じた場合、また、揺れを感じなくても津波警報が発表された場合には、直ちに海岸から離れ高台等の安全な場所に避難してください。

○ [火山活動]

御嶽山では、火山活動には低下傾向がみられるものの、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。また、噴気活動や地震活動等が活発化する場合には、火口周辺に大きな噴石を飛散させ、火砕流を伴うような噴火となる可能性があります。火口から4km程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に警戒してください。

桜島では、爆発的噴火が発生するなど活発な噴火活動が継続しました。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

口永良部島では噴火は発生しませんでした。引き続き、火山活動は高まった状態で経過しており、新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒してください。

西之島では、噴火及び溶岩の流出が継続し新たに形成された陸地の拡大が確認されています。西之島の中心から概ね6km以内の範囲では噴火に警戒してください。

草津白根山では、湯釜付近の膨張を示す地殻変動が認められるほか、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられています。湯釜火口から概ね1kmの範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

阿蘇山では、中岳第一火口で25日に噴火が発生し、26日以降は連続的に噴火しました。中岳第一火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山(新燃岳)では、北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013年12月頃から伸びの傾向がみられます。火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

霧島山(えびの高原(硫黄山)周辺)では、火山性地震が時々発生しています。えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

諏訪之瀬島では、噴火が時々発生しました。火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

蔵王山では、18日から19日にかけて火山性微動が4回発生しました。登山等で火口に近づく際には十分に注意してください。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

日本の主な火山活動の概況は別紙3のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙4のとおりです。

注1：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注2：国土地理院のGNSSによる地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成26年11月の地殻変動について」を参照願います。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2014-goudou1208.html>

注3：気象庁の地震活動資料には、気象庁、防災科学技術研究所及び大学等関係機関のデータが使われています。

注4：地震活動及び火山活動の詳細については、「地震・火山月報（防災編）」平成26年11月号をご覧ください。

注5：平成26年12月の地震活動及び火山活動については、平成27年1月13日に発表の予定です。